

豊田市小原地区まちづくり計画

あなたが“未来の小原のために”できること



# おはら

みらいプラン

みんなの和で 元気な暮らし 未来につなぐ 里山おはら  
～踏み出そう みんなの力で～

平成26年2月

小原地域会議



## 持続可能な地域社会を目指して

この計画の策定においては、平成24年度から平成25年度の2年にわたり、約30回の会議を重ねて、「未来の小原のために私たちがすべきこと」を検討してきました。

人口減少など厳しい社会環境もありますが、私たちは、この美しい里山を子どもたちの世代に引き継ぎ、将来にわたって持続可能なまちづくりを行っていく必要があります。

私たちの地域「小原」には、自信をもつべき地域資源がたくさんあります。美しい自然、歴史ある文化、そして、優しく誠実なひとの心。これらの地域の宝を活かしていくことが、地域の元気を生み出していきます。

地域の未来は、今ここに住む私たち地域住民が行動してこそ、切り拓いていくことができます。みんなで力をあわせて、未来への一歩を踏み出しましょう。

平成26年2月

小原地域会議会長 安藤 満郎

## 目次

1	計画策定の目的	1
2	計画策定の主体	2
3	計画の構成と期間	2
4	小原地区の現状分析	
	（1）小原地区の人口	3
	（2）小原地区内の自治区別・町別人口	3
	（3）年齢別人口	6
	（4）観光入込客数の状況	6
	（5）商業の状況	7
	（6）事業所の状況	7
5	アンケート結果	
	（1）まちづくりアンケート	8
	（2）若者Uターンアンケート	10
6	計画づくりに必要な視点	12
7	おばらみらいプランの全体構成	13
8	おばらみらいプランの基本構想	
	（1）基本構想の位置づけ	14
	（2）まちづくりの基本理念	14
	（3）目指す将来像	14
9	おばらみらいプランの前期計画	
	（1）前期計画の位置づけ	15
	（2）計画事業が対応する地域課題	15
	（3）前期重点プロジェクト	18
	（4）前期推進事業	24
10	計画の推進体制について	
	（1）計画の管理・推進	27
	（2）計画推進のための仕組み	27
	（3）行政支援について	27
	資料編	28

## 1 計画策定の目的

平成17年の市町村合併により、小原村から豊田市小原地区となって10年目を迎えています。この間、小原地区では、住民によるワークショップを通じて、「①四季の回廊ミュージアム構想」「②安心・安全・快適プラン」「③定住促進計画」という3つの計画を策定し、地域の活性化と住み良い地域社会づくりに取り組んできました。

しかし、住民参加が十分に高まっていないことや、近年の市の財政悪化もあり、いずれの計画も順調に進んでいるとは言えない状況です。また、個別分野の計画は策定されているものの、地域全体のまちづくりの将来ビジョンは必ずしも明確にはなっていませんでした。

小原地区は、他の中山間地域と同様に、人口減少、耕作放棄地及び鳥獣害の増加、森林の保全等の多くの地域課題を抱えています。美しい里山を次世代につなぐためには、私たち地域住民が主体となって、地域課題に立ち向かう意識を高め、協力し、実際に行動していくことが必要です。

そこで、今後の10年間の「まちづくりの方向性」を定めることを目的として、小原地区まちづくり計画「愛称：おばらみらいプラン」を策定しました。

図表 1 豊田市小原地区の既存3計画

計画名称	概要
四季の回廊ミュージアム構想 【平成18年12月策定】	小原地区を一つの「フィールドミュージアム」ととらえて、まちづくり活動や基盤整備を進める構想。 ＜主な計画事業＞ ・ 小原ふれあい公園のトイレ等の施設、景観整備 ・ 和紙のふるさと周辺への文化交流拠点施設整備 ・ 川見四季桜公園周辺の駐車場整備
小原の安心・安全・快適プラン 【平成20年1月策定】	小原地区の道慈、福原、清原、本城の各地区別計画。安心・安全・快適の3分野それぞれの取組方針を掲載。 ＜主な計画事業＞ ・ 防犯灯の整備、防災マップ作成、道路の整備改修、不法投棄防止対策の実施、案内看板の設置など
小原地区定住促進計画 【平成22年1月策定】	「住宅・宅地の確保」「転入者受け入れ方策」「情報発信方策」の3分野に関する取組方針を掲載。 ＜主な計画事業＞ ・ 洗い出した宅地候補地の地権者調整及び事業化 ・ 定住促進サポート組織の設置 ・ 地域紹介パンフレットの作成

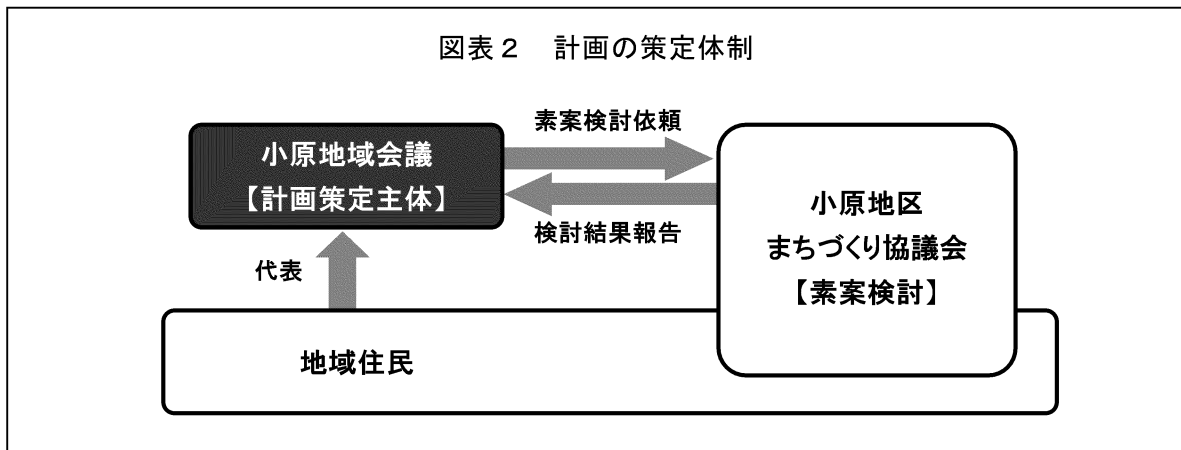
## 2 計画策定の主体

この計画の策定主体は、地域代表者で構成する「小原地域会議」です。

計画づくりにおいては、幅広い意見の聴取、専門的見地からの助言等を求めるため、地域住民、団体関係者及び学識経験者等で構成する「小原地区まちづくり協議会」を組織し、この協議会において具体的な計画の素案を検討してきました。協議会は計画案をとりまとめて小原地域会議に報告し、最終的には小原地域会議が計画を決定しました。

よって、この計画は、地域住民が、地域住民として自ら取り組むべき内容を定めた「地域計画」であり、専ら市が主体となる事業等を取りまとめた「行政計画」ではありません。

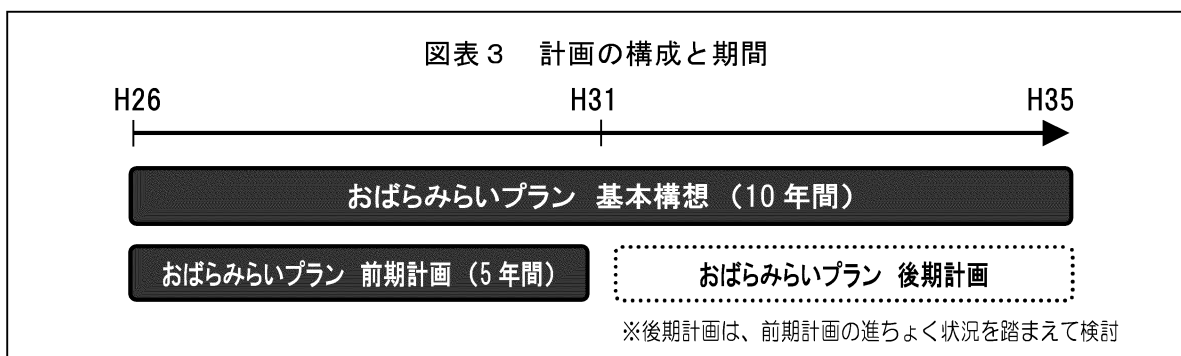
私たち地域住民は、この計画を実行に移す「主役」です。この計画をまちづくりの指針と考え、「自分が未来の小原のためにできること」を念頭に置いて行動していくことが必要となっています。



## 3 計画の構成と期間

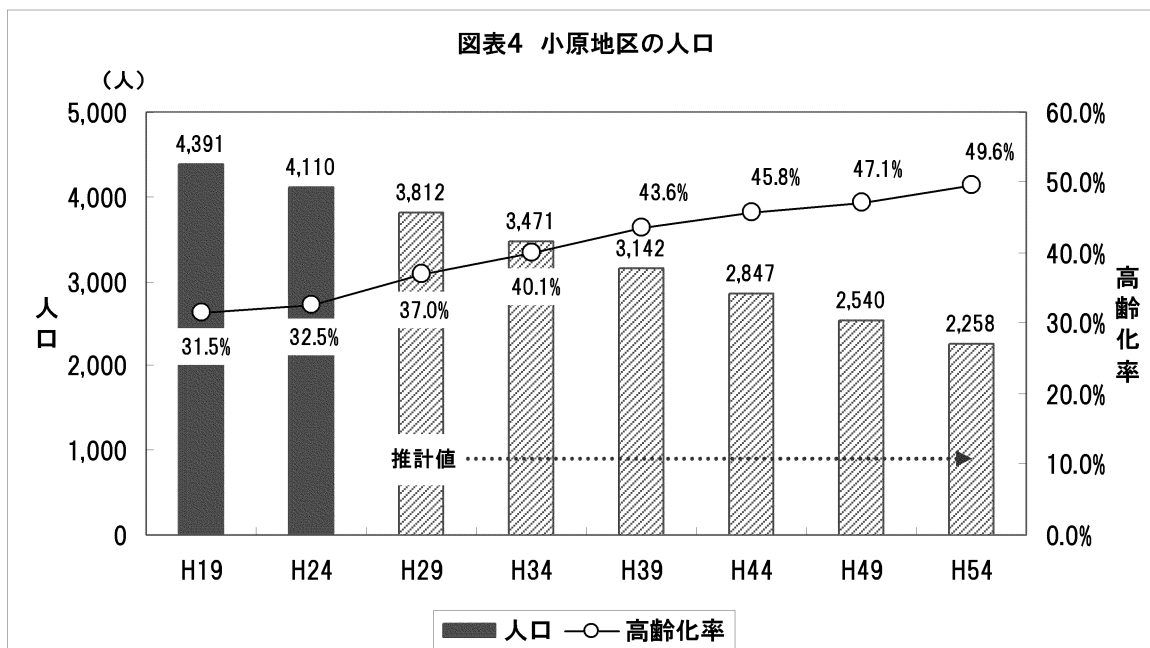
この計画は、10年間のまちづくりの方向性を定める「基本構想」と、基本構想に基づき前期5年間に実施すべき事業をまとめた「前期計画」で構成されます。

基本構想では、まちづくりを進める上で大事にすべき根本的な考え方を示す「まちづくりの基本理念」と、「目指す将来像」を掲げ、今後のまちづくりの将来ビジョンを明らかにしています。



## 4 小原地区の現状分析

### (1) 小原地区の人口（出典：豊田市統計）



平成19年から平成24年までの傾向を基に推計すると、30年後（平成54年）の人口は約45%減少することが見込まれます。

また、30年後の高齢化率も約50%にまで上昇すると予想されます。

これらの人口減少等への対策について、地域全体で考えていく必要があります。

### (2) 小原地区内の自治区別・町別人口

自治区別及び町別の人口について、昭和43年の行政区（現自治区）の発足時点と現在の状況を比較すると、図表5のとおりとなります。

自治区別に見ると、小原西区のみ人口が増加していますが、これは福祉施設が地域内に整備されたことが大きな要因です。また、これに次ぐ大平区もわずかな減少に留まっていますが、団地開発による住宅供給が影響しています。なお、小原東区、矢作区では50%を超える減少率となっており注意が必要です。

町別に見ると、20人に満たない人口となっている町が5つあり、今後どのようにコミュニティを維持していくのか、地域全体で検討していくことが求められています。

図表5 自治区別・町別人口（出典：小原村誌、豊田市統計）

自治区	町名	昭和43年4月	平成25年4月	差	増減率
大平区	大平町	411	391	-20	-4.9%
	寺平町	62	86	24	38.7%
	荷掛町	72	64	-8	-11.1%
	計	545	541	-4	-0.7%
道慈区	大洞町	148	120	-28	-18.9%
	三ツ久保町	96	47	-49	-51.0%
	乙ヶ林町	152	116	-36	-23.7%
	千洗町	100	59	-41	-41.0%
	計	496	342	-154	-31.0%
小原西区	沢田町	146	284	138	94.5%
	西萩平町	39	23	-16	-41.0%
	喜佐平町	59	45	-14	-23.7%
	北篠平町	256	236	-20	-7.8%
	計	500	588	88	17.6%
上仁木区	上仁木町	263	192	-71	-27.0%
	東郷町	198	108	-90	-45.5%
	川見町	73	57	-16	-21.9%
	計	534	357	-177	-33.1%
旭区	柏ヶ洞町	56	39	-17	-30.4%
	雑敷町	39	10	-29	-74.4%
	大ヶ蔵連町	194	115	-79	-40.7%
	前洞町	82	65	-17	-20.7%
	計	371	229	-142	-38.3%
高原区	小原田代町	172	111	-61	-35.5%
	小原北町	191	102	-89	-46.6%
	計	363	213	-150	-41.3%
小原中区	永太郎町	212	211	-1	-0.5%
	小原大倉町	87	44	-43	-49.4%
	北大野町	18	12	-6	-33.3%
	松名町	80	48	-32	-40.0%
	計	397	315	-82	-20.7%
小原東区	宮代町	54	31	-23	-42.6%
	苅萱町	77	51	-26	-33.8%
	平岩町	51	17	-34	-66.7%
	西丹波町	59	21	-38	-64.4%
	岩下町	58	15	-43	-74.1%
	計	299	135	-164	-54.8%
栄区	下仁木町	192	166	-26	-13.5%
	遊屋町	66	50	-16	-24.2%
	計	258	216	-42	-16.3%
大草区	小原町	299	247	-52	-17.4%
	大坂町	89	68	-21	-23.6%
	李町	212	125	-87	-41.0%
	鍛冶屋敷町	78	29	-49	-62.8%
	計	678	469	-209	-30.8%
城東区	市場町	232	163	-69	-29.7%
	西細田町	155	121	-34	-21.9%
	川下町	121	72	-49	-40.5%
	計	508	356	-152	-29.9%
矢作区	百月町	70	16	-54	-77.1%
	築平町	141	68	-73	-51.8%
	日面町	92	44	-48	-52.2%
	平畑町	114	69	-45	-39.5%
	樽俣町	99	56	-43	-43.4%
	計	516	253	-263	-51.0%
合 計		5,465	4,014	-1,451	-26.6%

※各年4月1日現在の人口

※町名は、平成17年の市町村合併等により昭和43年当時と変更があったが、現在の地名で表記

図表6 小原地区の自治区と町の位置図

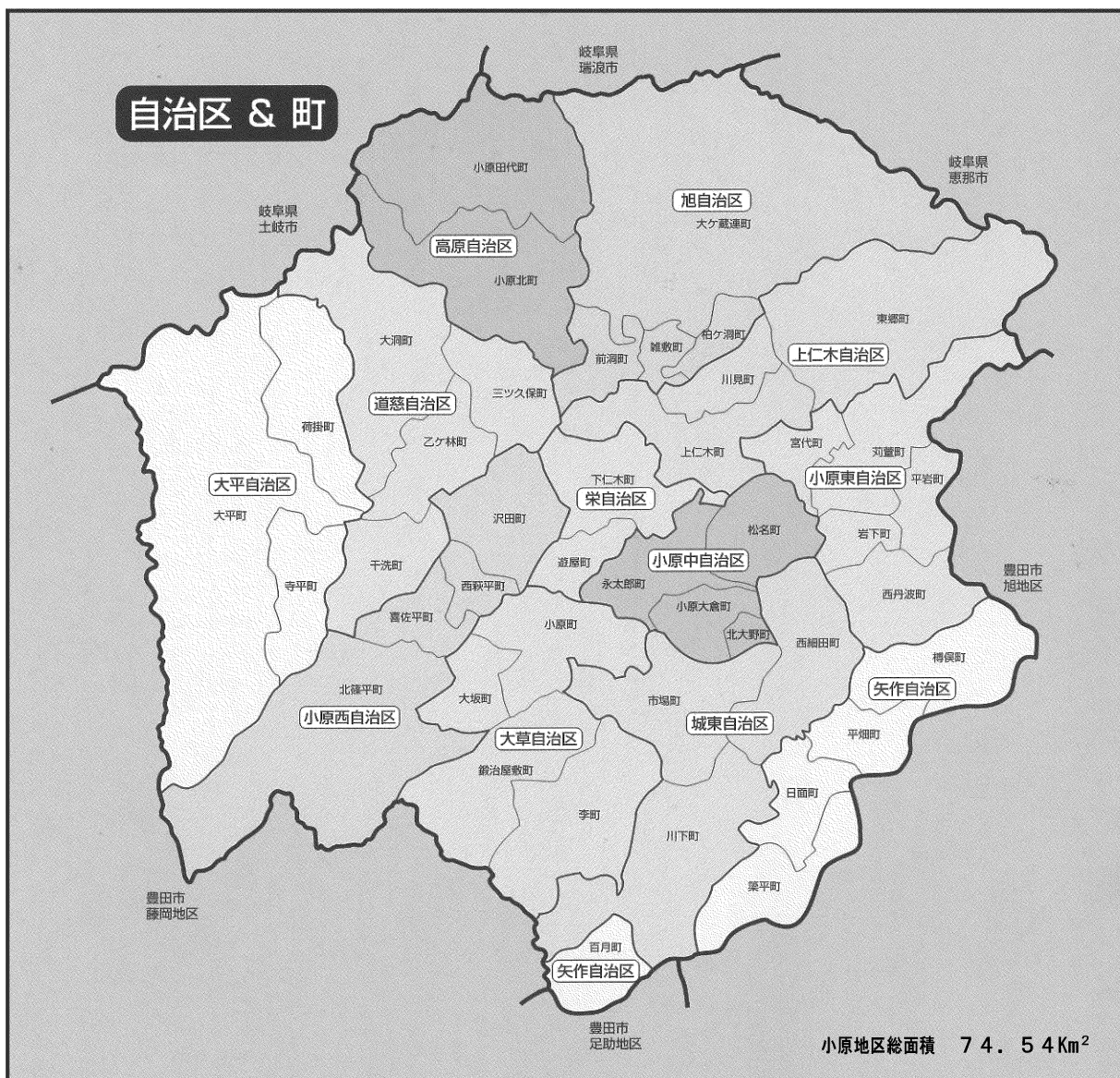


写真1 川見四季桜の里

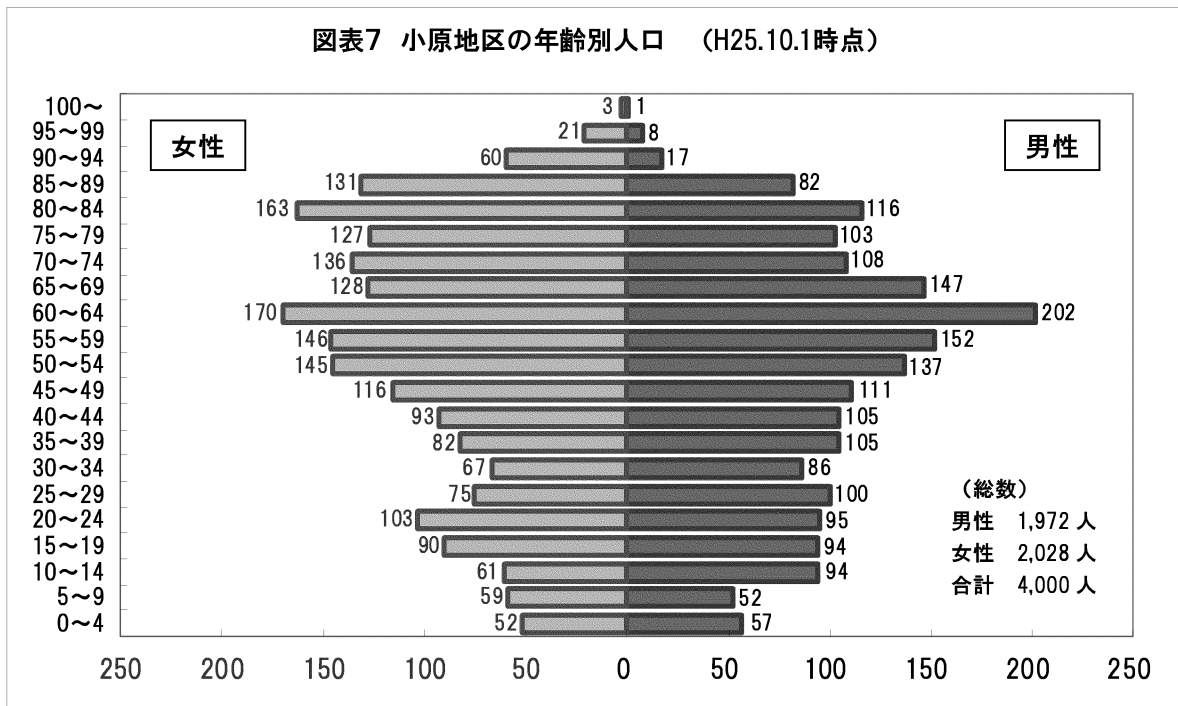


写真2 小原地区の里山風景（小原田代町）



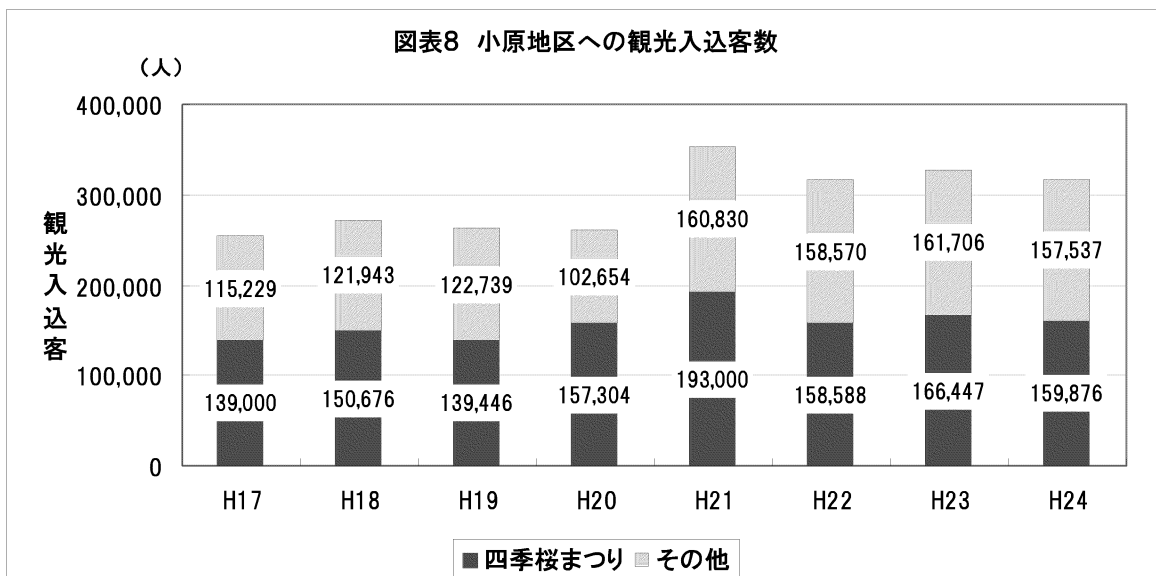


(3) 年齢別人口 (出典：豊田市統計)



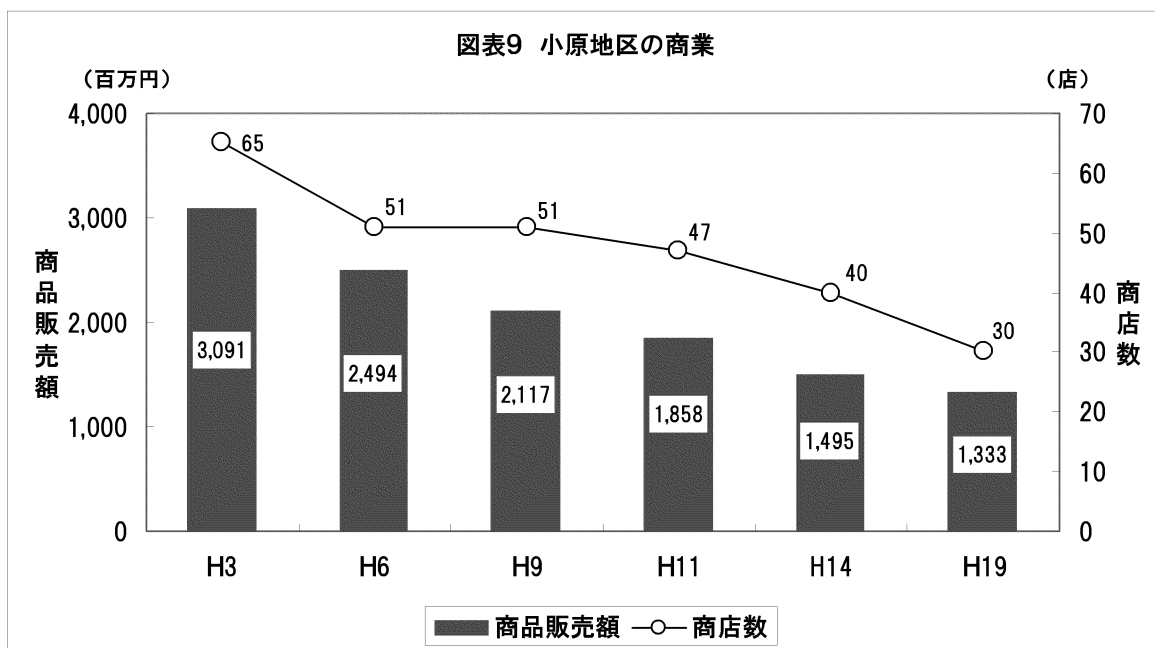
年齢別人口を見ると、概ね逆ひょうたん型の形状となっており、少子高齢化が進行している様子が確認できます。若年層では、20代後半から30代前半にかけて比較的少ない構成となっており、就職や結婚により地区外に転出している可能性がうかがえます。また、10歳未満は他の年代と比べて特に少ない状況であり、学校運営の問題や将来の地域の担い手不足が懸念されます。

(4) 観光入込客数の状況 (出典：愛知県観光入込客統計調査)



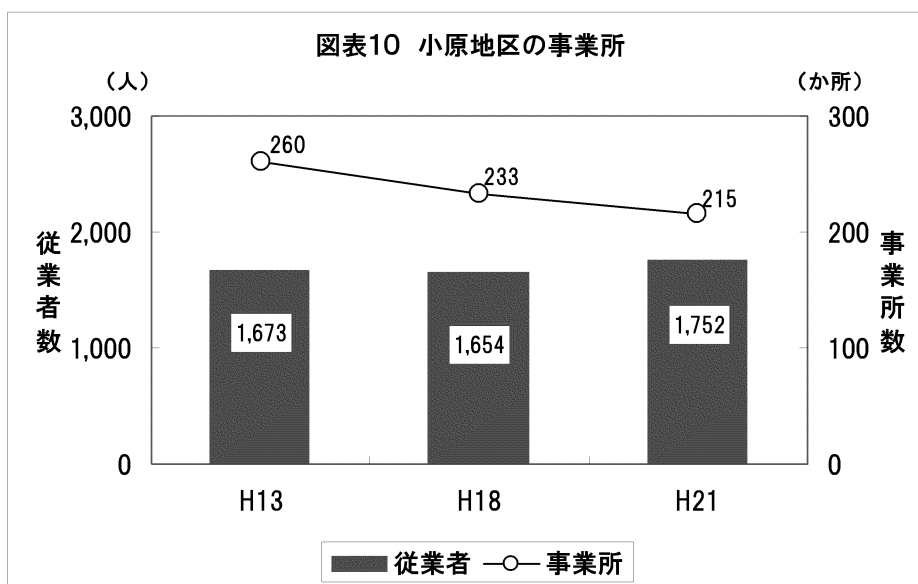
観光入込客数は、平成17年からの横ばい傾向から平成21年に大幅に増加しました。これは、四季桜が新聞等のメディアに取り上げられ多くの反響があったことが要因です。その後はやや減少したものの、再び横ばい傾向となっています。

(5) 商業の状況 (出典：商業統計調査)



商業の状況を見ると、一時商店数に横ばい傾向が見られますが、その後は減少傾向が続いており、今後の地域の商業環境の低下が懸念されます。

(6) 事業所の状況 (出典：経済センサス)



事業所の状況を見ると、事業所数は減少傾向を示している一方で、従業者数は平成21年に増加が見られます。これは、事業所の廃業後の空地を活用した新規事業所の進出のほか、自動車関連製造業の人員増強等が影響しているものと考えられます。

ただし、事業所数全体の減少傾向からは、小規模事業所の厳しい経営環境や経営者の高齢化等が影響している様子がうかがえます。

## 5 アンケート結果

### (1) まちづくりアンケート

小原地区の住民の生活意識、意見・要望等を把握し、今後のまちづくりに関する取組の基礎資料を得ることを目的として、アンケートを実施しました。

(まちづくりアンケートの概要)

区 分	概 要	
調査方法等	調査地域	小原地域全域
	調査対象	小原地区に在住する18歳以上の者
	調査方法	自治区長会を通じて1世帯あたり3部を配布
	調査時期	平成24年12月7日～平成25年1月9日
回収状況	2,023人 ※H24.12.1時点調査対象者数(3,585人)に対する回収率=56.4%	

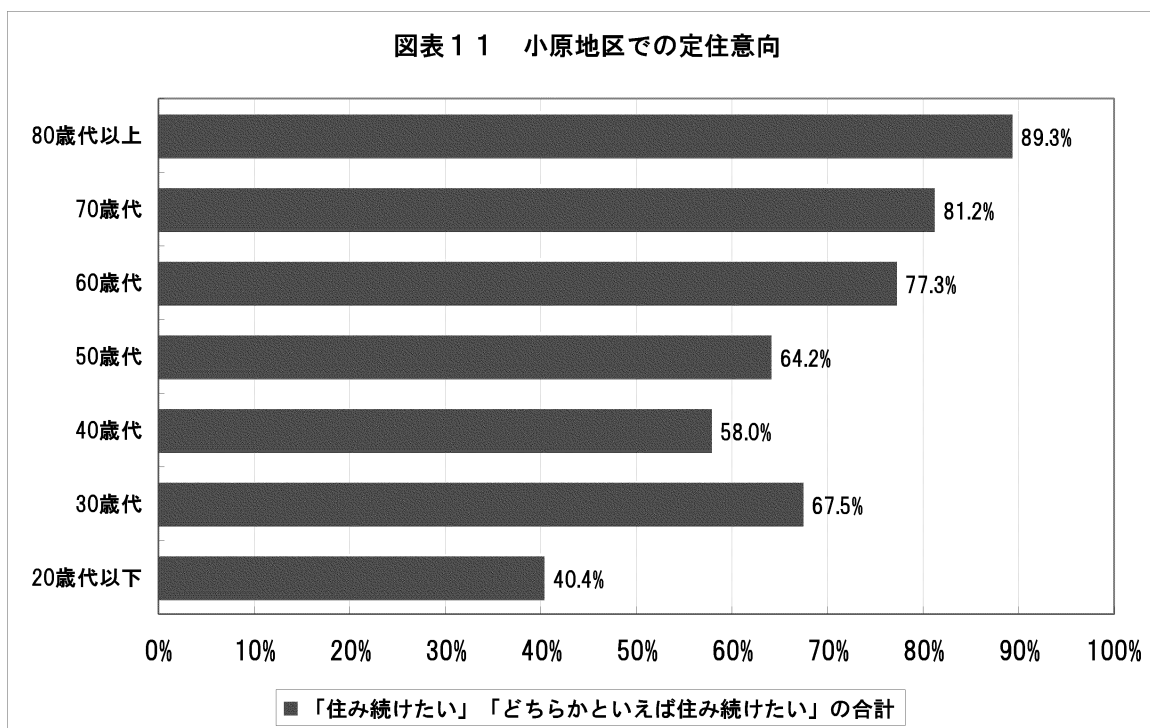
(主なアンケート結果)

Q1 小原地区の課題や問題点はどのようなことだと思いますか？(複数回答可)

No	選択肢	回答数	得票率
1	鳥獣被害を減少させること	1,182	58.4%
2	日常生活品等の買い物の不便の解消	892	44.1%
3	病院、診療所などの医療の充実	846	41.8%
4	近くに働く場をつくること	821	40.6%
5	バス等の公共交通機関の充実	701	34.7%
6	生活道路・交通をスムーズにすること	626	30.9%
7	子育てを支援すること	570	28.2%
8	農業・農地を保全すること	546	27.0%
9	高齢者の生きがいづくりの場等の創出	492	24.3%
10	自然環境を保護すること	484	23.9%
11	高齢者、障がい者、母子家庭等の福祉対策	397	19.6%
12	地震や風水害などの防災対策の強化	391	19.3%
13	安全で安価な住宅を提供すること	344	17.0%
14	通学路の安全確保等の交通安全の推進	304	15.0%
15	防犯に関すること	253	12.5%
16	住民同士の交流の場や機会の拡充	208	10.3%
17	広場、公園等の施設の整備	127	6.3%

回答者の約6割が農地を保有していることもあり、「鳥獣被害を減少させること」が第1位となりました。ただし、20歳以下の第1位は「公共交通機関の充実」、30歳代の第1位は「子育て支援」、40歳代の第1位は「買い物の不便解消」であり、年代による意見の違いが見られます。

Q 2 これからも小原地区に住み続けたいと思いますか？



小原地区での定住意向を見ると、全体としては年齢が高くなるほど定住意向も強いという傾向になっています。

20歳代以下を見ると定住意向が過半数を下回っており、若者も住み続けたいくなるまちづくりが必要と考えられます。なお、30歳代では前後の年代よりも高い数値となっており、幼少期の子どもを持つ子育て世代においては、現在の暮らし環境に一定の満足感を得ていることがうかがえます。

## (2) 若者Uターンアンケート

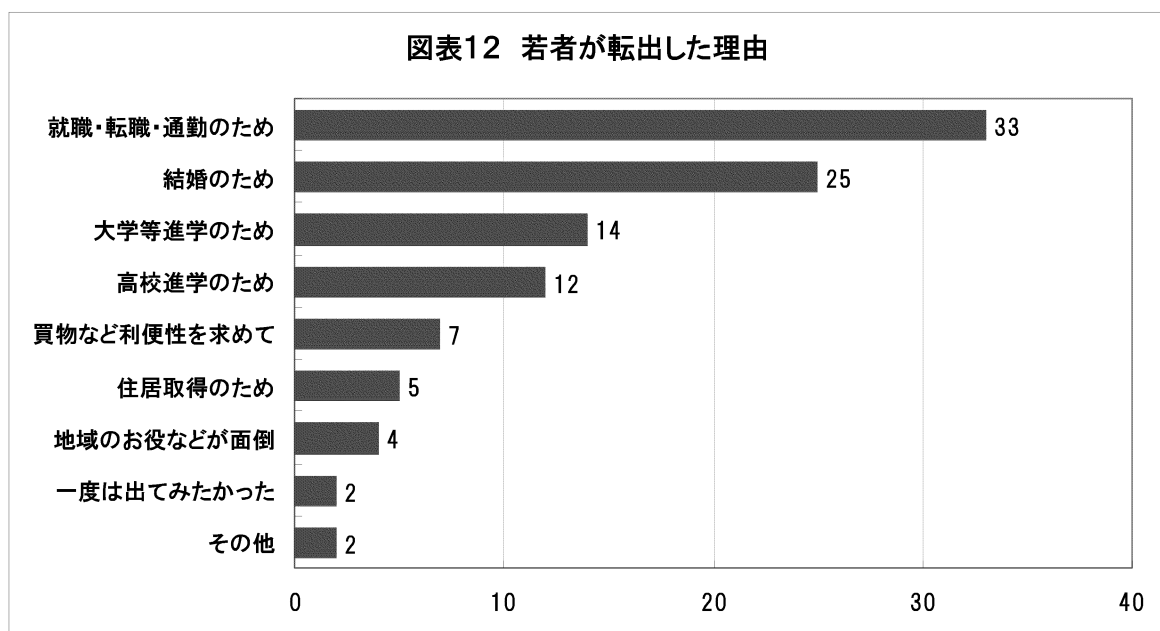
小原地区から転出した若者（18歳～40歳）を対象に、転出した理由や今後の意向等について調査しました。

(まちづくりアンケートの概要)

区 分	概 要	
調査方法等	調査対象	小原地区から転出した18歳以上40歳以下の者
	調査方法	自治区長会を通じて、小原地区から転出した家族の情報（住所、氏名等）を本人承諾の上で提供依頼し、その情報により郵送調査
	調査時期	平成25年1月4日～平成25年1月27日
回収状況	66人	※調査票送付数109人に対する回収率=60.5%

(主なアンケート結果)

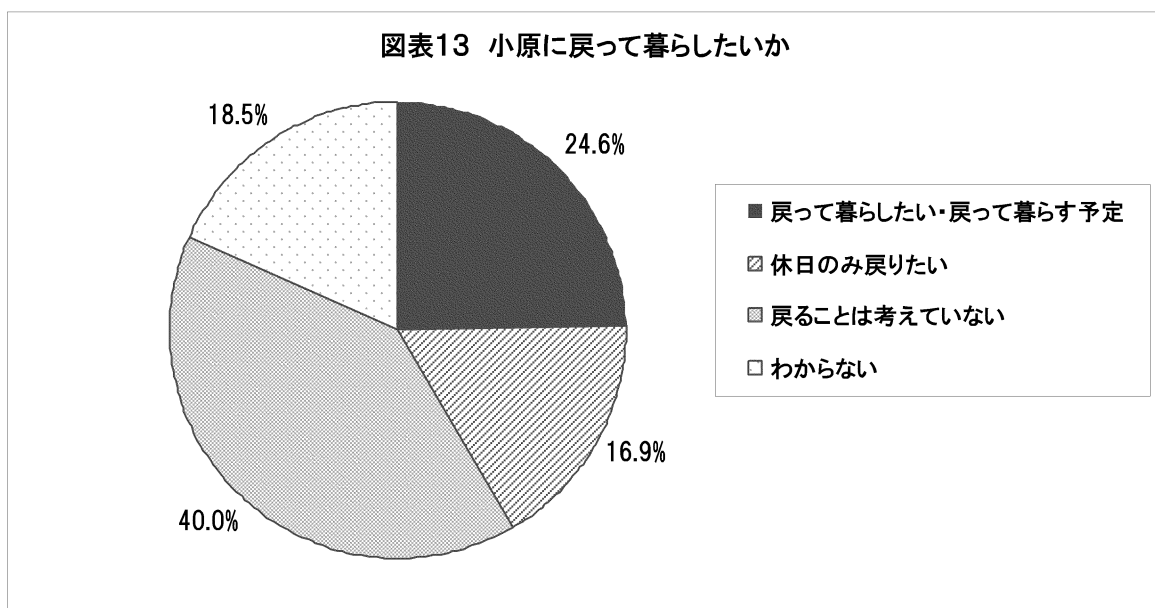
### Q1 小原地区を離れた理由は何ですか？（複数回答可）



若者の転出理由を見ると、「仕事」と「結婚」がその他よりも高い水準となっています。

特に「仕事」は回答者の50%が該当しており、地域内の雇用環境が若者の転出に大きく影響していることが確認できます。

Q 2 将来、小原地区に戻って暮らしたいと考えていますか？



小原地区へのUターンの意向を見ると、約25%が「戻って暮らしたい」と回答しています。多くの回答者が都市部に居住していると推定されることから、都市部と比較した小原地区での暮らし方について、改めて魅力を感じている若者が相当数いることがうかがえます。

また、考えを決めかねている回答者も多いことから、Uターン促進に関する取組を強化し、小原地区での定住をPRしていくことが必要と考えられます。

## 6 計画づくりに必要な視点

小原地区の現状分析やアンケート結果を踏まえると、10年先の地域を見据えた本計画づくりにおいては、以下の視点に留意することが必要と考えられます。

### (計画づくりに必要な視点)

- ① 少子高齢化・人口減少に対応するため、定住促進に関して住民主体でできることをよく考える必要があります。また、若者が住みたくなる地域にするためには、子育て環境の充実も検討が必要です。
- ② 農地や水環境を大切にしてい、暮らし環境を守っていくとともに、今後は小規模高齢化集落が増えていくことから、お互いが支えあう地域社会づくりを進める必要があります。
- ③ 地域社会の活力を高めるためには、地域資源の魅力を磨き、観光交流を促進させることが重要です。なお、情報発信の方法や地域資源を連携させるなど、様々な工夫をしていくことが必要です。

### ○参考資料

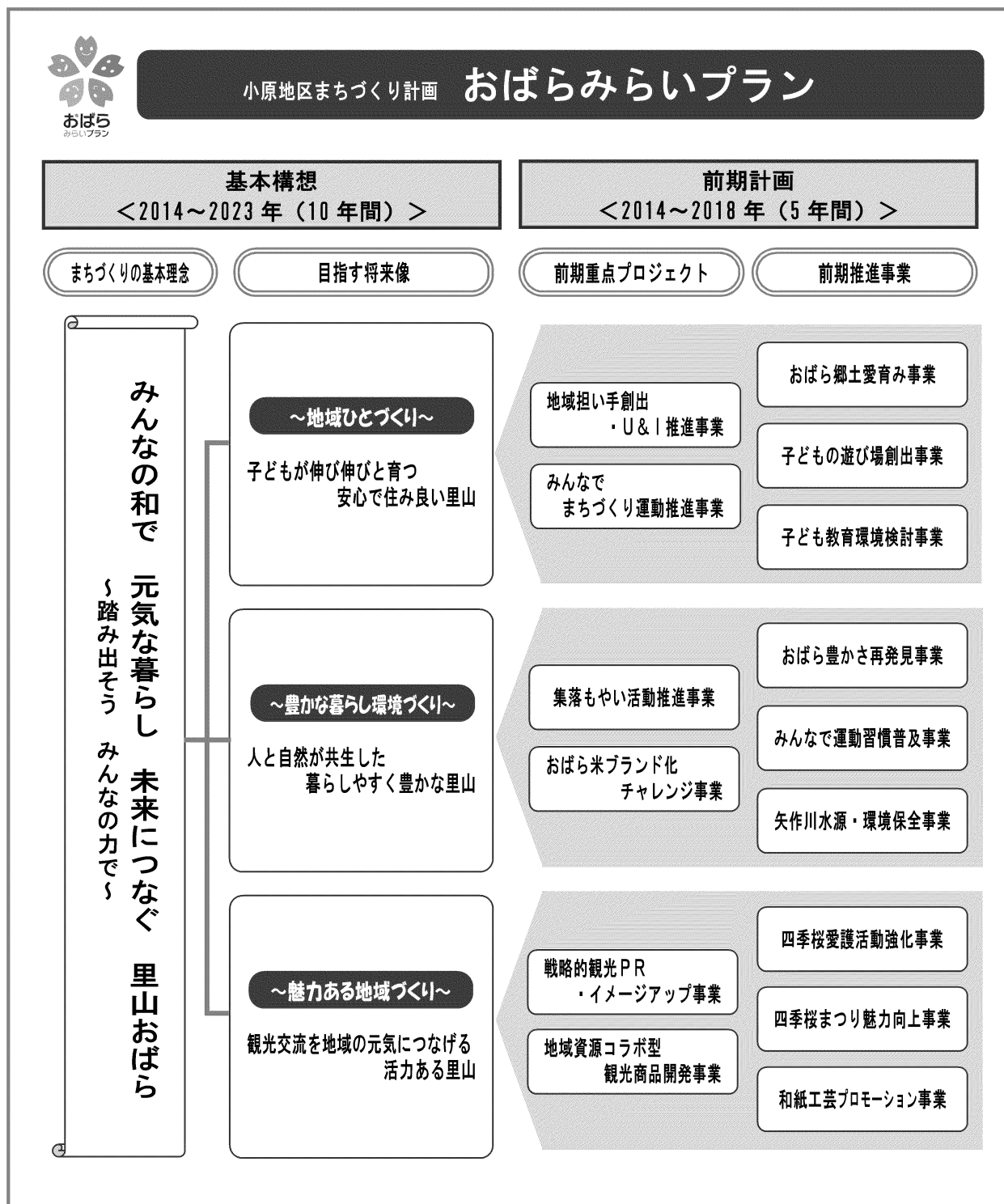
＜「今後重視すべき取組分野」に関するまちづくり協議会グループワーク結果＞  
 平成25年3月11日に実施した第3回小原地区まちづくり協議会において、「今後のまちづくりで重視すべき取組分野」を検討するグループワークを実施した結果、次のようになりました。

得点	取組分野	将来ビジョンのヒント
11	地域力	住民同士のつながりを大切にしたい支えあうまち
10	定住	子どもたちが住み続けたいまち
10	子育て・子育て	地域全体で子どもを大切にしたいまち
10	産業振興	地元で働ける活力あるまち
10	観光交流	訪れたい魅力的なまち
7	農地保全	手入れされた農地がもたらす美しいまち
6	健康・福祉・医療	健康で安心できる住みよいまち
6	文化・学習	里山の文化と歴史が次世代に受け継がれるまち
6	道路・交通	便利で安心な暮らしやすいまち
6	生活環境	買い物や暮らしが便利な生活しやすいまち
6	山林整備	美しい山々に囲まれた自然と共生するまち
5	防災・防犯	地域のふれあいで築く安心・安全なまち
5	環境保全	人と自然が共存する美しく暮らしやすいまち

## 7 おばらみらいプランの全体構成

「おばらみらいプラン」は、基本構想（10年）と前期計画（5年）で構成するものとします。また、基本構想は「まちづくりの基本理念」と「目指す将来像」、前期計画は「前期重点プロジェクト」と「前期推進事業」により構成します。

図表14 おばらみらいプランの全体構成





## 8 おばらみらいプランの基本構想

### (1) 基本構想の位置づけ

基本構想とは、今後10年間における小原地区のまちづくりの「基本的なビジョン」を示すものです。その内訳としては、「地域住民がまちづくりを進める上で大事にすべき根本的な考え方（基本理念）」「まちづくりをどのような方向に向かって進めていくのか（目指す将来像）」の2つで構成しています。

### (2) まちづくりの基本理念

**みんなの和で 元気な暮らし 未来につなぐ 里山おばら**  
～踏み出そう みんなの力で～

(考え方)

- ・ 「みんなの和で」…集落と集落、自治区と自治区が協力しあう地域社会を目指して
- ・ 「元気な暮らし」…住民の健康はもちろん、交流によるにぎわいや地域経済、活発な子ども達を含めて、活力ある地域にするため
- ・ 「未来につなぐ」…子ども達が大人になった時代を考えて
- ・ 「里山おばら」…四季桜などの自然のほか、文化・芸術・素朴な心など、みんなの里山を将来に受け継いでいこう

### (3) 目指す将来像

目指す将来像	考え方
～地域ひとづくり～ <b>子どもが伸び伸びと育つ 安心して住み良い里山</b>	人口減少が進む中、地域を担う「ひと」はまちづくりにおいて最も大切な宝。定住対策を進めるとともに、子ども目線と親目線の両方を大事にして、住み良い、住みたくなる地域社会を目指す。
～豊かな暮らし環境づくり～ <b>人と自然が共生した 暮らしやすく豊かな里山</b>	住民同士のつながりを大事にして支えあう地域づくりを進めるとともに、美しい自然環境を守り、まちの暮らしやすさをより高めていくことを目指す。
～魅力ある地域づくり～ <b>観光交流を地域の元気につなげる 活力ある里山</b>	地域資源を最大限に活用して交流人口を増加させるとともに地域経済の循環につなげ、若者の雇用の受け皿づくりや文化の保全・振興により、地域の魅力づくりと活性化を目指す。

## 9 おばらみらいプランの前期計画

### (1) 前期計画の位置づけ

前期計画とは、10年間の期間とした基本構想の推進に向けて、前期5年間に取り組む事業を掲げたものです。前期計画で掲げる事業には、「前期重点プロジェクト」と「前期推進事業」の2種類があります。

前期重点プロジェクトは、前期計画のうち「特に力を入れて取り組むべき事業」であり、計画策定の過程において、小原地域会議及び小原地区まちづくり協議会での議論の中で抽出された事業です。

また、前期推進事業は、重点プロジェクトには抽出されなかったものの、計画に位置づけて推進を図るべき事業です。

### (2) 計画事業が対応する地域課題

前期計画で掲げた事業（計画事業）は、それぞれが重要な地域課題に対応したものとなっており、詳細は下表のとおりです。

基本構想を推進しようとする時、計画事業のみを実施すればよいということではなく、計画事業が対応している地域課題が何かを考え、幅広く地域活動を展開していくことも必要です。特に、わくわく事業団体においては、計画が示しているまちづくりのビジョンを十分理解するとともに、計画事業が対応している地域課題をしっかりと捉えた活動が望まれます。

将来像区分	地域課題	計画事業	
地域ひとづくり	定住促進	重点	地域担い手創出・U&I推進事業
		推進	おばら郷土愛育み事業
	まちづくりリーダー育成	重点	みんなでまちづくり運動推進事業
	子育て・子育ち	推進	子どもの遊び場創出事業
推進		子ども教育環境検討事業	
豊かな暮らし 環境づくり	地域支えあい（地域力）	重点	集落もやい活動推進事業
	耕作放棄地の解消	重点	おばら米ブランド化チャレンジ事業
	暮らしの豊かさの認知度向上	推進	おばら豊かさ再発見事業
	高齢者の健康づくり	推進	みんなで運動習慣普及事業
	水環境の保全	推進	矢作川水源・環境保全事業
魅力ある 地域づくり	観光交流の促進	重点	戦略的観光PR・イメージアップ事業
		推進	四季桜愛護活動強化事業
		推進	四季桜まつり魅力向上事業
	産業振興	重点	地域資源コラボ型観光商品開発事業
	和紙文化の振興	推進	和紙工芸プロモーション事業

## <計画事業のポイント>



### ～「地域課題」ってなに?～

地域の課題はたくさんありますが、計画事業が対応している「地域課題」とは、10年後の小原を考えた時に、「特に重要でその他よりも優先して対策を考えるべきもの」です。



### ～地域住民はどうすればいいの?～

計画事業には想定される主体を書いています、「任せておけば大丈夫」ということではありません。みなさん一人ひとりが計画事業に参加・協力することが「未来の小原のために」必要です。



### ～どうやって計画を進めるの?～

計画の「地域課題」に対応した事業であれば、「わくわく事業補助金※」での優遇が受けられます。また、事業内容によっては、地域予算提案事業の活用も検討していきます。

※その他の市補助金等を活用している事業は、わくわく事業補助金を利用できません。詳しくは市小原支所でご確認ください。

写真3 小原地区まちづくり協議会の会議風景



写真4 軽トラあんどんパレード



写真5 小原歌舞伎（演目：車挽き）



写真6 小原和紙で製作したドレス



写真7 小原夏まつり



写真8 四季桜まつり



(3) 前期重点プロジェクト

地域ひとつづくり

事業名	<b>地域担い手創出・U &amp; I 推進事業</b>					
事業主体	主	若者Uターン促進イベント実行委員会、 小原地区定住促進委員会				
	副	小原地区区長会、小原地域会議、 豊田市小原支所				
地域課題	<b>&lt;定住促進&gt;</b> ①小原地区の人口減少が続いている ②Uターン・Iターンに関する取組に着手したばかりで、具体的な成果がまだ上がっていない					
事業目的	小原地区の人口減少に対応した定住対策を総合的に展開することで、Uターン・Iターンを推進し、将来の地域社会を担う若者等を呼び込むこと					
事業戦略	①小原地区へのUターン・Iターンを推進するためには、「受入住居の確保」のほか、「地域への愛着の呼び起こし」「地域情報の発信」「地域の機運醸成」が必要 ②若者Uターン促進イベント実行委員会による「A：地域への愛着呼び起こしと情報発信」、定住促進委員会による「B：空き家物件の発掘」、区長会及び地域会議による「C：地域の機運醸成」の3本柱を展開 ③活動成果を集約し「見える化」することで関連事業を息長く推進していく					
事業内容	①A：軽トラあんどんパレード・コンテストやおばちゅうカフェの継続開催により情報発信先（ふるさとおばら倶楽部登録メンバー）を拡充させる ②A：（仮）小原通信の発行による地域情報の発信 ③B：貸出し可能な空き家の発掘と空き家情報バンクへの登録 ④B：空き家情報バンクを活用した移住者の受入支援 ⑤C：地域の定住促進機運の醸成のための取組推進					
推進手法	①若者Uターン促進イベント実行委員会活動の継続 ②小原地区定住促進委員会の開催と定住促進員による空き家物件の発掘 ③区長会、小原地域会議での情報共有と機運醸成に向けた取組推進 ④豊田市地域予算提案事業としての予算措置					
事業行程	取組項目	H26	H27	H28	H29	H30
	Uターンイベント （仮）小原通信発行	●	●	⇒	⇒	⇒
	空き家発掘・登録 （定住促進員）	●	●	●	●	●
	移住者の受入支援 （定住促進員）	●	●	●	●	●
	機運醸成の推進	●	●	●	●	●
事業目標	空き家情報バンクの活用等による移住者の受入件数 5件（H26～H30）					



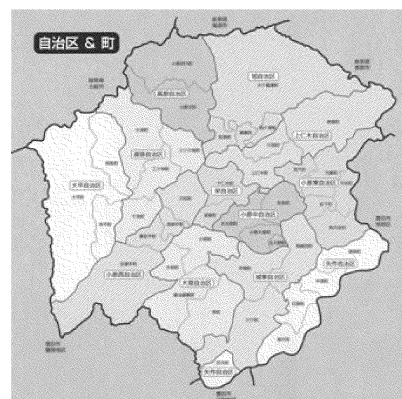
事業名	<b>みんなでまちづくり運動推進事業</b>					
事業主体	主	小原地域会議				
	副	小原地区区長会、豊田市小原支所				
地域課題	<p>&lt;まちづくりリーダー育成&gt;</p> <p>①定住促進、四季桜の管理、観光振興など小原地区全体の課題解決に取り組む人材が不足している</p> <p>②在住する自治区を超えた地域課題にも取り組もうとする地域住民の意識が高まっていない</p>					
事業目的	小原地区全体の課題解決に取り組む人材の発掘を推進し、小原地区の一体感醸成と課題解決力の向上を図ることで、持続可能な地域づくりを推進すること					
事業戦略	<p>①小原地区全体の地域課題の解決に取り組む人材を増やしていくためには、まちづくり活動をする「楽しさ」「充実感」を広く地域住民に知ってもらうことが必要</p> <p>②小原地域会議を中心として、まちづくり活動に従事している人の声を集めて、「一緒にやりませんか」というメッセージを地域住民に発信する</p> <p>③住民それぞれの興味に応じて、取り組みやすいまちづくり活動のメニューをとりまとめてPRする</p> <p>④まちづくり活動に取り組む人材を幅広く増やし、地域の「まちづくり力」を高める</p>					
事業内容	<p>①まちづくり活動実践者の声（感想）や活動内容のとりまとめ</p> <p>②地域住民に対して、まちづくり活動の「楽しさ」「充実感」を伝える情報発信の実施</p> <p>③協力者を求めているまちづくり活動をメニュー化してPR</p>					
推進手法	<p>①小原地域会議による方針協議・事業推進</p> <p>②小原地区区長会との連携・情報共有</p>					
事業行程	取組項目	H26	H27	H28	H29	H30
	実践者の声とりまとめ	●		●		
	楽しさ等の情報発信		●		●	
	メニュー化・PR		●		●	
	効果検証					●
事業目標	メニュー化・PRを通じたまちづくり活動者の増加数 10人（H26～H30）					

豊かな暮らし環境づくり

事業名	<b>おばら米ブランド化チャレンジ事業</b>					
事業主体	主	地域農業従事者（営農グループ）				
	副	小原地域営農協議会・豊田市小原支所				
地域課題	<p><b>&lt;耕作放棄地の解消&gt;</b></p> <p>①農業従事者の高齢化に伴って遊休農地が増加しており、景観悪化のほか害虫発生・獣害被害の拡大が懸念されている</p> <p>②地域農業を担う若者が少なく、呼び込む方策が定まっていない</p>					
事業目的	美味しいと言われる小原地区産のお米のブランド力を高めることで商品の販売価格を向上させ、もって地域農業の新たな担い手確保や集団営農の推進による遊休農地の解消・増加抑止を図ること					
事業戦略	<p>①遊休農地の増加抑止や若い農業従事者を確保するためには、魅力的で経済性のある農業スタイルが構築されていることが必要</p> <p>②魅力的で経済性のある農業スタイルを構築するためには、生産効率が高くブランド化の可能性のある「お米」を対象農産物とし、その品質を立証することが必要</p> <p>③品質評価機関での品質立証やコンクール（品評会）での入選を目指すことで、お米のブランド力を高める</p> <p>④ブランド化されたお米を「(仮) 特選おばら米」などの高級米として販売し、独自の販路開拓も目指す</p> <p>⑤ブランド米の生産を担う若者を広く募集し、地域農業の担い手確保を図るとともに、遊休農地の解消・増加抑止につなげる</p>					
事業内容	<p>①地域の農業従事者から本事業の推進者を募り、グループとして組織化する</p> <p>②グループとしてブランド化の方策を研究</p> <p>③評価機関（あいち産業科学技術総合センターほか）での品質立証や、コンクール（米・食味分析鑑定コンクール：米・食味鑑定士協会主催、ほか）への応募にチャレンジ</p> <p>④評価を得たお米の耕法を分析・研究し、地域内での展開を検討する</p>					
推進手法	<p>①豊田市わくわく事業の活用</p> <p>②豊田市農政課等との連携・支援制度の調査及び活用促進</p> <p>③国・県の支援制度の調査及び活用促進</p>					
事業行程	取組項目	H26	H27	H28	H29	H30
	事業推進者の発掘とグループ化	●				
	ブランド化方策の研究	●				
	評価機関の活用		●			
	コンクールへの応募			●	●	
	耕法分析・展開策検討					●
事業目標	お米コンクール（品評会）での入選 1件（H26～H30）					


豊かな暮らし環境づくり

事業名	<b>集落もやい活動推進事業</b>					
事業主体	主	もやい活動グループ				
	副	小原地区区長会、豊田市小原支所				
地域課題	<p>&lt;地域支えあい（地域力）&gt;</p> <p>①小規模高齢化集落が増加しており、草刈り等の地域活動が十分できない集落が現れてきている</p> <p>②自治区間、町内会間での協力・連携意識が高まっていない</p>					
事業目的	増加する小規模高齢化集落を地域全体で支えるため、集落間連携、町内会連携、自治区間連携の意識を高め、支えあい活動を実践し、共に助けあう地域社会づくりを推進すること					
事業戦略	<p>①共に助けあう地域社会づくりを推進するためには、「お互いを知る」ための交流の場が必要</p> <p>②交流・情報交換により得た「気付き」を「行動」につなげるため、具体的な「支えあいプログラム」を検討</p> <p>③「支えあいプログラム」を実践することで集落間の絆を深め、協力・連携関係を構築</p>					
事業内容	<p>①小原地区全体の人口動態や高齢化の推移を町単位で集計し、情報共有する</p> <p>②お互いを知るための交流の場をつくる（小学校区単位で、構成する集落の状況について情報交換）</p> <p>③支えあいプログラムの検討（災害時連携、高齢者見守り、交流行事ほか）</p> <p>④支えあいプログラムの実践</p>					
推進手法	小原地区区長会による協議・PR					
事業行程	取組項目	H26	H27	H28	H29	H30
	人口等将来推計	●				
	交流の場づくり		●			
	支えあいプログラム検討		●	●		
	支えあいプログラム実践			●	●	●
事業目標	支えあいプログラムの実践件数 通算3件（H26～H30）					






魅力ある地域づくり

事業名	<b>戦略的観光PR・イメージアップ事業</b>					
事業主体	主	小原観光協会				
	副	豊田市小原支所				
地域課題	<p>&lt;観光交流の促進&gt;</p> <p>①価値の高い地域資源があるものの、小原地区の認知度は十分高まっていない</p> <p>②小原地区の雇用の場の確保・増大のために必要な観光産業の振興が十分展開できていない</p>					
事業目的	小原地区の観光に関わる地域資源の魅力を結集し、戦略的にPRすることで、イメージアップと観光客の増加を図り、地域経済の振興につなげること					
事業戦略	<p>①観光産業の振興には、小原に訪れる観光客の増加が必要</p> <p>②観光客の増加を図るため、観光PRの展開において「ターゲット（年代、性別、場所）の選定」と「効果的なPR方法の選択」を行う</p> <p>③訪れた観光客に対するおもてなしや交流促進を図ることで、小原地区のイメージアップを図るほか、地域経済の振興にもつなげる</p>					
事業内容	<p>①観光客の在住地、年齢、性別、交通手段の調査</p> <p>②将来予測を踏まえた潜在需要の分析</p> <p>③PRターゲットの特定</p> <p>④効果的なPR方法の選択</p> <p>⑤PRプログラムの決定・展開</p> <p>⑥効果の検証・PR方法の見直し</p>				<p>&lt;事業イメージ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの利用機会の少ない高齢者向けのPR推進（所属団体を通じたPR、店舗協力等）</li> <li>・潜在需要を踏まえ、ターゲット地区を特定した集中PRの実施（高速道路沿いの県外地区ほか）</li> </ul>	
	推進手法	<p>①小原観光協会の事業計画（宣伝事業）への位置づけと予算化</p> <p>②豊田市観光振興団体事業補助金による事業支援</p>				
事業行程	取組項目	H26	H27	H28	H29	H30
	観光客調査・需要分析	●				
	PR手法の調査研究	●				
	PRプログラムの決定	●				
	PRプログラム①	●	●			
	プログラム中間検証		●			
	PRプログラム②			●	●	
効果検証				●	●	
事業目標	<p>四季桜まつり入込み客数の増加</p> <p>H30年度：18万人（H24年度比+2万人）</p>					

事業名	<b>地域資源コラボ型観光商品開発事業</b>					
事業主体	主	観光関連事業者				
	副	小原商工会・豊田市小原支所				
地域課題	<p>&lt;産業振興&gt;</p> <p>①魅力的な観光商品が十分提供できておらず、販売機会を生かしきれていない</p> <p>②地域事業者の高齢化が進行しており、商業環境の衰退が懸念されている</p>					
事業目的	四季桜、和紙、歌舞伎などの価値の高い地域資源を連携させ、消費者にとって魅力的な観光商品を開発・販売することで、地域の観光産業の活性化を図る					
事業戦略	<p>①観光産業の振興には、魅力的で付加価値の高い観光商品の開発が重要</p> <p>②商品の魅力・付加価値を高めるためには、地域資源の利活用・連携やデザイン力の向上を図るべき</p> <p>③観光商品開発により消費者のニーズに応えると同時に地域観光産業の振興を図り、あわせて地域事業者の人材確保にもつなげていく</p>					
事業内容	<p>①当該事業の趣旨の周知・PR（小原商工会・豊田市小原支所）</p> <p>②事業の公募・採択</p> <p>③商品開発</p> <p>④共同PR活動の展開</p> <p>⑤商品販売</p>					
推進手法	<p>①小原商工会における事業計画化・予算化</p> <p>②豊田市わくわく事業の活用</p> <p>③豊田市商業観光課・農政課等の支援制度の活用促進</p> <p>④国・県の支援制度の調査及び活用促進</p>					
事業行程	取組項目	H26	H27	H28	H29	H30
	事業の周知・PR	●		●		
	合同勉強会の開催	●		●		
	公募・採択	●	●	●	●	●
	商品開発・共同PR	●	●	●	●	●
事業目標	地域資源コラボ型の商品開発 5件（H26～H30）					

(4) 前期推進事業


地域ひとつづくり

事業名	おばら郷土愛育み事業	事業主体	わくわく事業団体、小中学校ほか
地域課題	<p>&lt;定住促進&gt; 人口減少に対応するため定住促進のための事業展開を進めているが、若者に郷土愛の心を植え付ける取組が十分できていない</p>		
事業目的	<p>地区内に在住する子ども・若者について、地域の歴史・文化や地域活動等を学ぶ機会を創出して郷土愛を育み、将来の定住をはじめとした「若者の地域とのつながり」を高めること</p>		
事業内容	<p>①わくわく事業や地域団体のうち郷土愛の醸成に関連する取組について、小中学校との連携策を検討する ②事業団体が学校での講師を務めるほか、課外学習等で地域活動等の状況を学び、さらには体験活動等を実施することで、地域への愛着を育む</p>		


事業名	子どもの遊び場創出事業	事業主体	わくわく事業団体ほか
地域課題	<p>&lt;子育て・子育て&gt; 入園前の幼児をはじめとして、こども園や学校以外に子どもが気軽に集まる場所がない（子どもが少なく、集まっている場や機会がない）</p>		
事業目的	<p>気軽に子ども達が集まる「場づくり」を展開することで、子育てしやすい地域環境づくりを推進する</p>		
事業内容	<p>①「子どもの遊び場づくり」を推進しようとするコーディネーター（担い手）やグループを募集する ②応募団体等に対し、公共施設の利活用方法や事業運営方法を支援するほか、情報発信等に協力し、事業の実施・展開を図る</p>		

事業名	子ども教育環境検討事業	事業主体	小原地域会議
地域課題	<p>&lt;子育て・子育て&gt; 小学校のクラス編成において、児童数の減少から将来は複式学級化になることが心配されている</p>		
事業目的	<p>子どもの教育環境について、幅広い世代を交えて意見交換し、今後のあり方を検討すること</p>		
事業内容	<p>①地域会議において子どもの教育環境のあり方について意見交換するとともに、事例研究を進める ②子どもの教育環境の今後のあり方に関するアンケート調査の実施を検討する</p>		


豊かな暮らし環境づくり


事業名	おぼら豊かさ再発見事業	事業主体	わくわく事業団体ほか
地域課題	<p>&lt;暮らしの豊かさの認知度向上&gt; 緑が豊かな自然をはじめとする小原地区の「豊かさ（強み）」を地域住民が十分認識できておらず、また有効に情報発信されていない</p>		
事業目的	<p>恵まれた自然環境とその地域で暮らすことについて、都市部と比較してその豊かさを再発見し、環境保全意識を高めるとともに地域の魅力発信力を強化すること</p>		
事業内容	<p>①小原の空気、水、緑、食生活、低炭素度などを都市部と比較研究し、データ化 ②小原で暮らす豊かさを「見える化」し、地域住民にPR。環境保全意識を高めるとともに、地区外にも情報発信してその魅力を伝える</p>		


事業名	みんなで運動習慣普及事業	事業主体	健康づくり団体
地域課題	<p>&lt;高齢者の健康づくり&gt; 高齢化が進行していく中で、運動習慣をはじめとする健康づくりの重要性が高まっているが、その認識が十分定着していない</p>		
事業目的	<p>ウォーキングなどの運動習慣について、高齢者を中心として地域に広め、いつまでも元気な地域社会づくりを推進すること</p>		
事業内容	<p>①市健康政策課と連携して運動習慣づくりに関する勉強会を開催し、地域の機運を高める ②ウォーキングなどに一緒に行う仲間づくりを促し、運動習慣を地域に広め、定着させていく</p>		

事業名	矢作川水源・環境保全事業	事業主体	自治区その他地域団体
地域課題	<p>&lt;水環境の保全&gt; 矢作川水系の重要水源地在小原地区であることが、地域住民に十分認識されておらず、地域全体として水環境保全意識を高める必要がある</p>		
事業目的	<p>築平町の岩倉取水口は豊田市水道の水源であることを地域住民が認知し、地域全体で水環境保全に関する取組を推進すること</p>		
事業内容	<p>①愛知県西三河農林水産事務所・岩倉管理所と連携し、区長会や学校等において岩倉取水口の重要性を再認識する ②不法投棄防止対策、浄化槽の設置、森林の間伐事業などを推進し、水環境保全に関する取組を強化する</p>		

魅力ある地域づくり

事業名	四季桜愛護活動強化事業	事業主体	小原四季桜愛護会
地域課題	<p>&lt;観光交流の促進&gt; 小原地区に広く植樹してきた四季桜について、剪定や施肥などの管理が十分行き届いていない桜が見受けられるとともに、管理手法が確立されていない</p>		
事業目的	<p>剪定方法などの管理手法を確立するとともに、小原地区全体で四季桜の管理体制を構築し、植樹した四季桜をより美しく保全すること</p>		
事業内容	<p>①小原四季桜愛護会が中心となって、剪定方法等を研究し、管理手法を確立する ②小原地区全体で四季桜の管理を担うマンパワーを集めて、持続的な管理体制を構築する ③おいでん・さんそんセンター等と連携し、桜の管理に関する都市部との協力体制等について検討していく</p>		

事業名	四季桜まつり魅力向上事業	事業主体	小原四季桜まつり実行委員会
地域課題	<p>&lt;観光交流の促進&gt; 約16万人が訪れる四季桜まつりについて、来場者数がやや減少傾向にある</p>		
事業目的	<p>四季桜まつり会場のデザインやイベント内容等の魅力向上を図り、リピーターの増加を図ること</p>		
事業内容	<p>①四季桜まつり会場のデザインやイベント内容の魅力向上に向けて、広く意見を聴取するとともに検討会を開き、ステップアップ方策をまとめる ②節目となる「第20回小原四季桜まつり（平成28年度）」にあわせて、まつりのリニューアルを実施し、魅力向上を図る</p>		

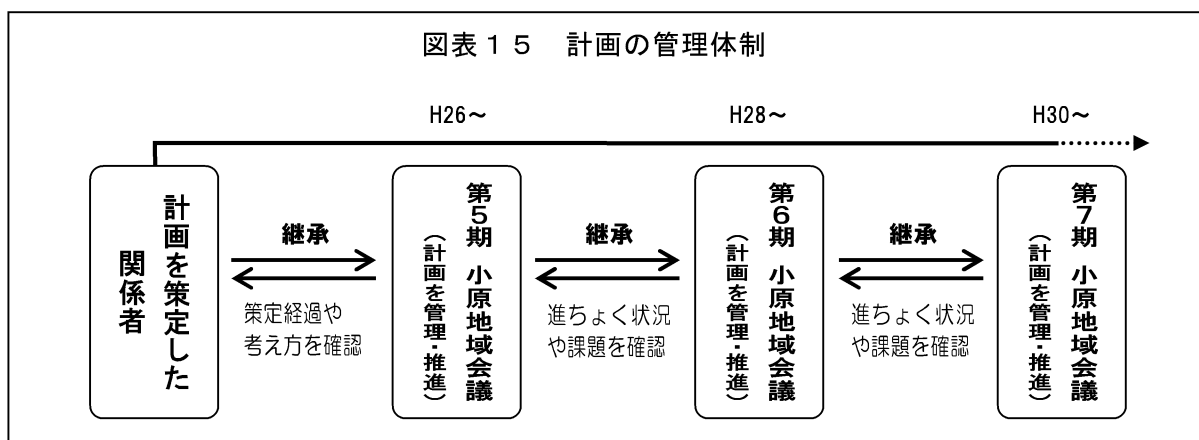
事業名	和紙工芸プロモーション事業	事業主体	和紙のふるさと運営協議会ほか
地域課題	<p>&lt;和紙文化の振興&gt; 価値の高い地域資源である和紙工芸について、その魅力の活用や情報発信方法をさらに改善する余地がある</p>		
事業目的	<p>和紙工芸の魅力の商品力等につなげるとともに情報発信を強化し、小原和紙のブランド力向上と観光交流人口の増大を図ること</p>		
事業内容	<p>①大学との連携によって、和紙を生かした商品開発や施設利活用方法等について検討し、小原和紙のブランド力向上策をとりまとめる ②商品開発とともに情報発信を強化し、イメージアップや来館者数をめざす。また、他の地域資源との連携による魅力向上を検討する</p>		

## 10 計画の推進体制について

### (1) 計画の管理・推進

計画を着実に実行していくためには、地域住民の意識高揚と行動が必要であると同時に、適切な進ちょく管理体制の構築が大切です。

この点について、下図のとおり、計画策定主体である小原地域会議が計画管理の主体となり、事業実施状況の確認や担い手確保のためのPR等を行っていきます。なお、計画管理を行う小原地域会議が、計画策定関係者や直前の小原地域会議に経緯や推進上の課題等を確認することで、「計画のねらい」や「推進方法」を着実に継承していくこととします。



### (2) 計画推進のための仕組み

計画事業を着実に推進していくためには、地域住民が計画の理念と計画事業の内容を十分理解して行動することが必要です。あわせて、「計画の実効性」を高めるためには、計画に則した活動を優先的に支援していく仕組みも検討する必要があります。

以上の観点を踏まえ、下記の計画推進策を講じていきます。

- ①計画の周知・PRのため、小原地域会議による広報活動を展開
- ②計画に則した地域活動を優先的に支援するため、わくわく事業の審査方法を見直し
- ③少なくとも1年に1回、計画の進ちょく状況に関する情報発信を実施

### (3) 行政支援について

豊田市小原支所は、小原地域会議の事務局として、計画の進ちょく状況に関する情報収集やPRを実施し、計画の推進を支援していきます。また、地域団体等が計画に則した事業展開を図る上で、必要となる財政的支援や公共事業が発生した場合には、わくわく事業や地域予算提案事業を活用しながら適切に対応していきます。

～資料編～

1 小原地域会議・小原地区まちづくり協議会の委員構成

(1) 小原地域会議（第4期委員（平成24年度～平成25年度））＜◎は会長、○は副会長＞

No	氏名・選出地区	No	氏名・選出地区
1	水野 浩克 (大平自治区)	9	成瀬 篤 (栄自治区)
2	大嶋 貢 (道慈自治区)	10	吉田 勇 (大草自治区)
3	○安藤 篤氏 (西自治区)	11	加納 四朗 (城東自治区)
4	加藤 俊介 (上仁木自治区)	12	池野 定雄 (矢作自治区)
5	永江 正人 (旭自治区)	13	安藤 久美子 (商工会推薦)
6	◎安藤 満郎 (高原自治区)	14	中垣 邦俊 (公募)
7	勝上 公雄 (中自治区)	15	春日井 恵美子 (公募)
8	勝上 佐智夫 (東自治区)		

(2) 小原地区まちづくり協議会 (◎は会長、○は副会長)

No	平成24年度	No	平成25年度
1	◎安藤 満郎 (地域会議委員)	1	◎安藤 満郎 (地域会議委員)
2	○谷口 功 (学識経験者・相山女子学園大学准教授)	2	○谷口 功 (学識経験者・相山女子学園大学准教授)
3	水野 浩克 (地域会議委員)	3	水野 浩克 (地域会議委員)
4	大嶋 貢 (地域会議委員)	4	大嶋 貢 (地域会議委員)
5	藤本 啓司 (道慈小学校区代表区長)	5	岡田 壽昭 (道慈小学校区代表区長)
6	岡田 錬治 (旧福原小学校区代表区長)	6	土屋 光春 (旧福原小学校区代表区長)
7	山内 裕三 (旧清原小学校区代表区長)	7	成瀬 千之 (旧清原小学校区代表区長)
8	成瀬 双次男 (本城小学校区代表区長)	8	鈴木 成仁 (本城小学校区代表区長)
9	竹内 峯久 (コミュニティ会議会長)	9	成瀬 双次男 (コミュニティ会議会長)
10	鈴木 伴行 (社会福祉協議会)	10	鈴木 伴行 (社会福祉協議会)
11	能見 知行 (民生・児童委員協議会)	11	能見 知行 (民生・児童委員協議会)
12	春日井 恵美子 (健康づくり協議会)	12	春日井 恵美子 (健康づくり協議会)
13	成瀬 篤 (小原観光協会)	13	成瀬 篤 (小原観光協会)
14	三宅 順二 (豊田森林組合)	14	三宅 順二 (豊田森林組合)
15	伊藤 茂樹 (あいち豊田農協)	15	山田 長 (あいち豊田農協)
16	南波 泰司 (郵便局)	16	南波 泰司 (郵便局)
17	今井 和典 (小・中学校長代表)	17	澤田 宏彦 (小・中学校長代表)
18	斎木 恵理子 (PTA連絡協議会)	18	斎木 恵理子 (PTA連絡協議会)
19	持田 由美 (こども園長代表)	19	岡田 和代 (こども園長代表)
20	吉田 英樹 (消防団)	20	吉田 英樹 (消防団)
21	鈴木 孝典 (商工会青年部)	21	鈴木 孝典 (商工会青年部)
22	安藤 久美子 (商工会女性部)	22	安藤 久美子 (商工会女性部)
23	加知 満 (定住連絡会)	23	加知 満 (定住連絡会)

## 2 計画の策定経過

### (1) 平成23年度

時 期	内 容
平成24年 2月	第3期小原地域会議提言書「つながり 輝く 四季桜の里をめざして」において、「まちの将来像」のデザインの構築を提言

### (2) 平成24年度

時 期	内 容
平成24年 5月15日	□平成24年度第4回小原地域会議 ・活動方針協議で「まちづくり協議会」の設置を検討
6月13日	□平成24年度第6回小原地域会議 ・「まちづくり協議会」の設置を検討
7月11日	□平成24年度第7回小原地域会議 ・「まちづくり協議会」の具体案を検討
8月 8日	□平成24年度第8回小原地域会議 ・「まちづくり協議会」の委員構成案を協議
9月12日	□平成24年度第9回小原地域会議 ・「まちづくり協議会」の活動方針に関する協議
9月14日	○第1回小原地区まちづくり協議会 ・協議会発足、まちづくりビジョンの必要性について
10月10日	□平成24年度第10回小原地域会議 ・他地区まちづくりビジョンの事例確認
10月19日	○第2回小原地区まちづくり協議会 ・既存3計画の内容確認、まちづくりアンケートの検討
11月14日	□平成24年度第11回小原地域会議 ・まちづくりアンケートの内容協議
12月 7日	まちづくりアンケートの配布
12月12月	□平成24年度第12回小原地域会議 ・若者Uターンアンケートの検討
12月21日	各種団体ヒアリング（小原商工会女性部：16人）
平成25年 1月 4日	若者Uターンアンケートの配布
1月 9日	まちづくりアンケートの提出期限 <回答数2,023人（調査時点対象者に対する回収率56.4%）>
1月24日	各種団体ヒアリング（本城小学校PTA：19人）
1月27日	若者Uターンアンケートの提出期限 <回答数66人（回収率60.5%）>
2月 4日	まちづくりアンケート（中学生版）の配布
2月22日	各種団体ヒアリング（消防団：5人） まちづくりアンケート（中学生版）の提出期限（回答数97人）
3月 9日	□平成24年度第15回小原地域会議 ・まちづくりアンケート結果について
3月11日	○第3回小原地区まちづくり協議会 ・アンケート結果の確認、重視すべき取組分野の協議



(3) 平成25年度

時 期		内 容
平成25年	5月24日	○第4回小原地区まちづくり協議会 ・まちづくりの基本理念、目指す将来像の検討
	6月12日	□平成25年度第5回小原地域会議 ・まちづくりの基本理念の検討
	7月 8日	○第5回小原地区まちづくり協議会 ・重点プロジェクトの検討
	7月10日	□平成25年度第6回小原地域会議 ・重点プロジェクトの検討
	8月 6日	○第6回小原地区まちづくり協議会 ・重点プロジェクトの検討
	8月 7日	□平成25年度第7回小原地域会議 ・重点プロジェクトの検討
	10月 3日	○第7回小原地区まちづくり協議会 ・まちづくりの基本理念等の検討、事業計画の内容協議
	10月 8日	□平成25年度第8回小原地域会議 ・計画の骨子、計画事業の概要について
	10月29日	○第8回小原地区まちづくり協議会 ・計画の骨子の素案決定
	11月 6日	□平成25年度第9回小原地域会議 ・パブリックコメント資料について
	12月 6日	小原地区まちづくり計画素案のパブリックコメント開始
平成26年	1月 7日	小原地区まちづくり計画素案のパブリックコメント期限 (寄せられた意見：4通16件)
	1月23日	○第9回小原地区まちづくり協議会 ・パブリックコメントの結果と修正協議、素案決定
	2月12日	□平成25年度第12回小原地域会議 ・計画の決定



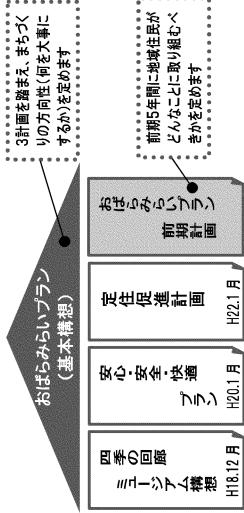
あひだが 未来の小原のためにできること

# おばらみらいプラン

平成 25 年 12 月パブリックコメント資料

小原地区まちづくり計画 の素案をお知らせします

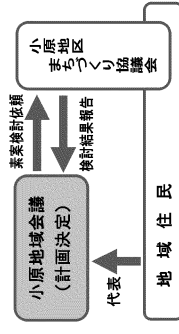
## 1 計画策定の目的 ～なぜ新しい計画をつくるの？～



小原地区には3つの地域計画があります。が、住民参加が高まっていないことや市の財政悪化もあり、順調に進んでいません。また、個別分野の計画しかなく、地域全体の将来ビジョンが明確ではありませんでした。

そこで、「まちづくりの方向性」を定めることを目的に、10年先を見通した「基本構想」と、5年間の行動計画をまとめた「前期計画」を策定します。

## 2 計画策定の主体 ～誰が計画をつくるの？～

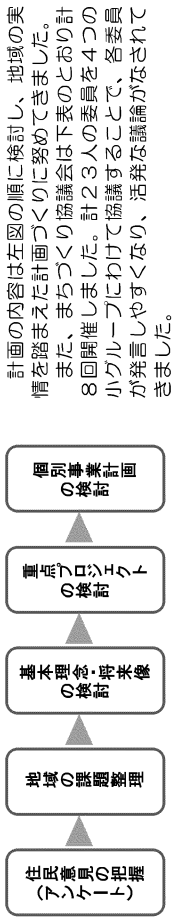


この計画は、地域住民が、地域住民として自ら取り組むべき内容を定めたものです

「小原地域会議」が計画策定の主体となります。「小原地区まちづくり協議会」が検討し、その検討結果を小原地域会議に報告します。最終的には小原地域会議が計画を決定します。

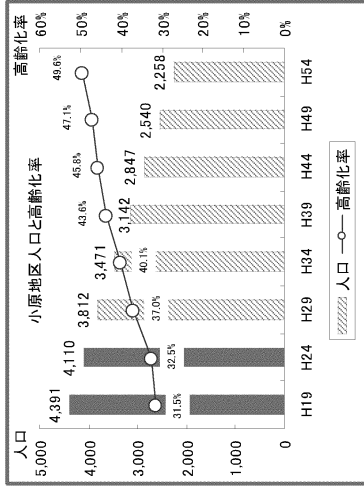
※「市の行政計画」ではありません。

## 3 計画策定経過 ～どうやって計画を考えてきたの？～



会議	開催日	主な協議内容
第1回	24年 9月14日	協議会の議題確認、人口推計、まちづくりアンケートの必要性(学識経験者講演)
第2回	10月19日	既存3計画の確認、まちづくりアンケート内容の検討
第3回	3月11日	まちづくりアンケート結果の確認、今後重視すべき取組分野の協議
第4回	5月24日	まちづくりの基本理念、目指す将来像の検討
第5回	7月 8日	重点プロジェクトの検討
第6回	8月 6日	重点プロジェクトの検討
第7回	10月 3日	まちづくりの基本理念等の検討、事業計画の内容協議
第8回	10月29日	まちづくりの基本理念等の素案決定、事業計画の内容案決定

## 4 人口の将来推計 ～小原の人口はこれからどうなっていくの？～



小原地区の人口は、30年後(平成54年)には約2,300人にまで減少する恐れがあります

平成19年から平成24年までの傾向を基に推計すると、30年後の人口は約45%減少することが見込まれます。また、30年後の高齢化率も約50%にまで上昇すると予想されます。これらの人口減少等への対策について、地域全体で考えていく必要があります。

## 5 まちづくりアンケート・リターンアンケートの結果 (抜粋) ～みんなの意見はどうなっているの？～

### ●小原地区の課題 問題点は？

順	選択項目	割合
1	鳥獣被害の減少	12.9%
2	買物の不便解消	9.7%
3	医療の充実	9.2%
4	働く場をつくる	8.9%
5	公共交通機関の充実	7.6%

回答者=2,023人

回答者の6割以上が農地を保有しており、20歳以下の1位は「公共交通」、30歳代の1位は「子育て支援」、40歳代の1位は「買い物の不便解消」であり、年代による意見の違いが見られます。

### ●これからも住み続けたいか？

※「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」をあわせて回答率

年代	割合
20歳代以下	40.4%
30歳代	67.5%
40歳代	58.0%
50歳代	64.2%
60歳代	77.3%
70歳代	81.2%
80歳代以上	89.3%

回答者=2,023人

若い年代ほど定住志向が低い。30歳代は比較的定住志向が高くなっています。

### <18～40歳の転出者への質問>

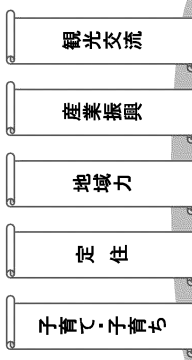
### ●将来、小原地区に戻って暮らしたいと考えているか？

選択項目	割合
戻って暮らしたい	24.6%
戻らず予定あり	16.9%
休日のみ戻りたい	40.0%
戻ることは考えていない	18.5%
わからない	-

回答者=66人

約25%の転出者が「戻って暮らしたい」と回答しており、リターン促進に関する取組の強化が必要と考えられます。

## 6 地域の課題整理 (今後重視すべき取組分野) ～頑張っていくべきテーマは何なの？～



人口推計やアンケート結果を元に、まちづくり協議会は「地域住民が今後重視すべき取組分野」を検討しました。

計13の取組分野を候補として、特に重視すべきものを検討した結果、左図の5つが浮かび上がってきました。

この5分野の課題解決や活性化を「本計画の柱」として捉えて検討していきます。

7 おばらみらいプランの全体像 ～まちづくりで大事にすべきことは？ どんなことに取り組めばいいの？～

＜基本構想＞ 2014-2023 (10年間)

基本理念

みんなの力で 元気な暮らし 未来になぐ 里山おばら  
 ↓ 踏み出そう みんなの力で ↓

将来像 1

～地域ひとづくり～  
 子どもが伸びひとと育つ  
 安心で住み良い里山

将来像 2

～豊かな暮らし環境づくり～  
 人と自然が共生した  
 暮らしやすい豊かな里山

将来像 3

～魅力ある地域づくり～  
 観光交流を地域の元気につなげる  
 活力ある里山

目指す将来像

＜前期計画＞ 2014-2018 (5年間)

前期重点プロジェクト ～特に力を入れて取り組むべき6事業～

前期推進事業

①地域担い手創出・U&I推進事業  
 主体：若者Uターン促進実行委員会、定住促進委員会  
 概要：小原地区への愛着を呼び起こすイベント(軽トラあんどん等)の実施、転出者向けの小原通商の築石、空き家等の発掘を総合的に展開。

②地域みんなのまちづくり運動推進事業  
 主体：小原地域会議  
 概要：小原地区全体の地域課題の解決に即り進む人材づくりのため、各種団体の活動状況(楽しさ・充実感)を共信し、担い手の発掘を推進。

③子ども教育環境検討事業  
 主体：小原地域会議  
 概要：今後の教育環境のあり方について、幅広く意見を聴いて将来の方向性を検討

④おばら郷土愛育事業  
 主体：わくわく事業団体、小中学校ほか  
 概要：子供・若者が地域の歴史・文化に触れる機会を増やし、愛着を育み、定住につなげる

⑤子どもの遊び場創出事業  
 主体：わくわく事業団体ほか  
 概要：入園前の幼児が気軽に集まる場所づくりを推進し、子育て環境の向上を図る

⑥おばら米ブランド化プロジェクト事業  
 主体：地産農産従事者(営農グループ)  
 概要：遊休農地の増加抑止や若い農業従事者を確保するため、お米のブランド化を研究、評価機関での品質立証、生産方法の共有、農家の組織化を推進。

⑦集落もやい活動推進事業  
 主体：もやい活動グループ(集落間の連携、協力組織)  
 概要：増加する小規模高齢化集落を地域全体で支えるため、お互いの情報交換や交流会・行事を開催し、支えあう地域社会づくりを推進。

⑧おばら豊かさ再発見事業  
 主体：わくわく事業団体ほか  
 概要：都市と比較した小原の豊かさ(水、食等)を明確化し、環境保全と魅力発信を図る

⑨天作川水源・環境保全事業  
 主体：自治民等地域団体ほか  
 概要：重要な水源地であることを学び、不法投棄防止対策や間伐促進などを推進する

⑩みんなの運動習慣普及事業  
 主体：健康づくり団体  
 概要：高齢化に対応するため地域全体に運動習慣を広め、元気な地域社会づくりにつなげる

⑪戦略的観光PR・イメージアップ事業  
 主体：小原観光協会  
 概要：価値の高い地域資源を活かすため、ターゲットを明確にした観光PRを展開。小原地区のイメージアップと観光交流人口の増加を図る。

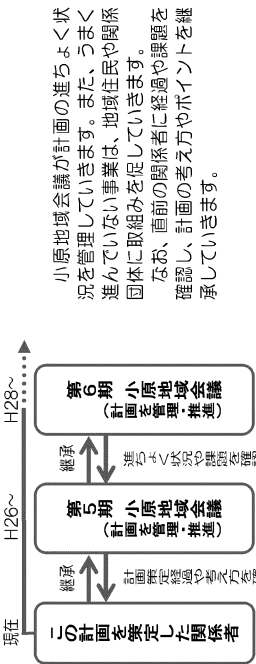
⑫地域資源コア型観光商品開発事業  
 主体：観光関連事業者  
 概要：四季桜、和紙、歌謡曲その他の地域資源を連携することで、魅力的な商品開発を推進。地域の観光産業の活性化を図る。

⑬四季桜資源活動強化事業  
 主体：小原四季桜愛護会  
 概要：四季桜の管理手法を確立し、持続可能な管理体制を構築する

⑭和紙工芸7ローション事業  
 主体：和紙のふるさと運営協議会  
 概要：大学と連携した商品開発や施設活用方法を研究し、魅力向上を図る

⑮四季桜まつり魅力向上事業  
 主体：小原四季桜まつり実行委員会  
 概要：平成28年度の祭20回まつりに向けてデザインやイベント内容を強化

8 計画の推進について ～計画はどうやって見守っていくの？～



小原地域会議が計画の進捗状況を管理していきます。また、うまく進んでいない事業は、地域住民や関係団体に取り組みを促していきます。なお、直前の関係者に経過や課題を確認し、計画の考え方やポイントを継承していきます。

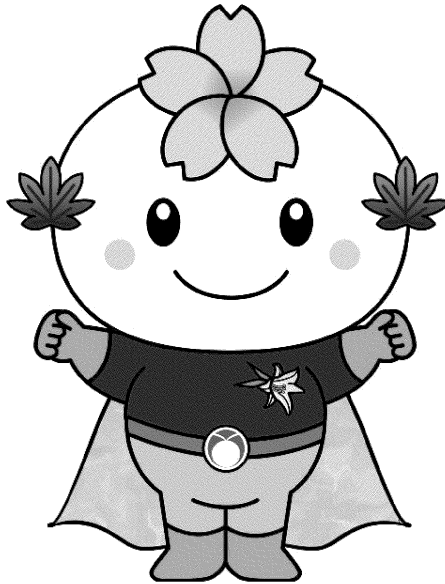
※上記の主体とは、その事業の推進において中心的役割(旗振り役)を担う想定団体を記載しています。表記のない団体も事業への連携、協力や、自主的活動をお願いたします。

みなさんのご意見をお聞かせください  
 <受付期間：1月7日(火)>

日程	内容
12月中	小原地区内での意見募集(ハブリックコメント)
1月下旬	まちづくり協議会(意見内容の確認・計画への反映)
2月 7日	小原地区区長会(最終案報告)
2月12日	小原地域会議(計画決定)
3月上旬	まちづくり2014(計画発表)

計画案へのご意見は、郵送、FAX又は電子メールにてお願いいたします。なお、小原支所では詳細資料の閲覧もできます。  
 <問合せ・資料閲覧>  
 小原地区まちづくり協議会事務局  
 (豊田市役所小原支所)  
 〒470-0592 豊田市小原町上平 441-1  
 電話 65-2001 FAX 65-3695  
 メール obara-shisho@city.toyota.aichi.jp





小原地区マスコットキャラクター“おばらっきー”

## 豊田市小原地区まちづくり計画 『おばらみらいプラン』

[平成26年2月発行]

計画策定 小原地域会議  
素案協議 小原地区まちづくり協議会  
編集 豊田市役所小原支所  
事務局 〒470-0592  
愛知県豊田市小原町上平441-1（豊田市役所小原支所）  
電話 0565-65-2001  
FAX 0565-65-3695  
メール obara-shisho@city.toyota.aichi.jp